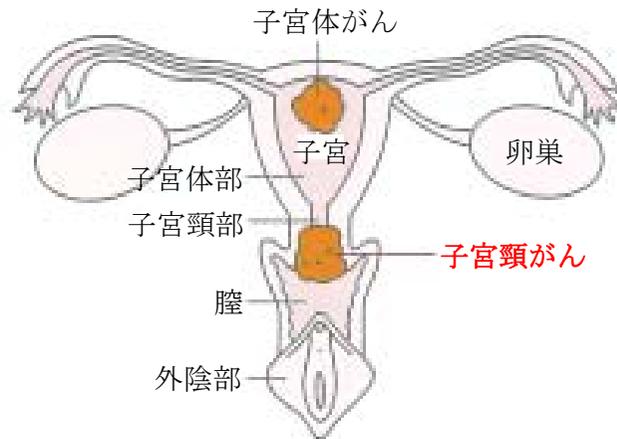


平成 22 年 1 月 1 日

子宮頸がんは日本において、1年間に約8000人が発症し、約2500人が死亡しています。子宮頸がんの発症は、ワクチンで予防できることをご存じですか？今回は、「**子宮頸がん予防ワクチン**」についてお話ししたいと思います。

● 子宮頸がん

子宮頸がんは、発がん性のヒトパピローマウイルス(human papillomavirus :HPV)が子宮の入り口(頸部)に感染し、発症します。初期の段階ではほとんど無症状です。発見が早いほど治療効果が期待できます。



● ヒトパピローマウイルス HPV

HPV は、主に性交渉によって子宮頸部へ感染します。特別な人だけが感染するのではなく、性交経験があれば、誰でも感染の可能性があります。HPV は皮膚や粘膜の接触により感染しますが、コンドームでは感染を 100% 予防することはできません。性交経験のある女性の 80% が一生に一度は感染していると報告があるほど、とてもありふれたウイルスです。

HPV に感染したとしても 90% 以上の人では自身の免疫によって、ウイルスが自然に排除されます。しかし一部の HPV が長い年月をかけて持続感染することで子宮頸がんを発症することになります。

☆ **子宮頸がんは、原因である HPV の感染を防ぐことで、発症を抑えることができます。**

● HPV は感染しても免疫を獲得しにくい

麻疹(はしか)などの他のウイルスに一度感染すると、体は自然免疫を獲得して、同じ型のウイルスに抵抗できるようになります。しかし、HPV は他のウイルスに比べて感染後の自然免疫が獲得されにくいことが知られています。そのため何度も感染するリスクがあります。

☆ **HPV に対して免疫を獲得するには、HPV ワクチンを接種する必要があります。**

● HPV ワクチン

HPV には 100 種類以上が確認されていますが、がんを引き起こすのは 15 種類程度です。特に 16 型と 18 型と呼ばれるタイプは世界的には子宮頸がんの原因の 70% を占めています。このため、現在、世界 100 カ国以上で使用されているワクチンはいずれも 16 型と 18 型を含みます。

HPV ワクチンは、日本では 10 歳以上の女性に接種することができます。海外の多くの国では初交開始年齢前の 12 歳前後の小児からワクチン接種することを推奨しています。0, 1, 6 ヶ月後の計 3 回、筋肉内接種となります。

海外の例では、全額自己負担だと 4 万円前後です。オーストラリアでは 26 歳までは無料、イギリスやフランスには公的補助があります。日本では 2009 年 12 月に発売されたばかりであり、詳細は未定です。

● HPV ワクチンの効果

HPV ワクチンは、3 回接種することが非常に重要で、1 回もしくは 2 回接種では十分な免疫は得られません。HPV ワクチンの効果は海外の臨床試験で 7~8 年続くことがわかっています。使われはじめて日が浅いため、まだ確実ではありませんが、10~20 年続くとの見方もあります。

初交前の女兒はもちろん、初交経験後で性行動がある女性においても予防効果が確認されています。この予防ワクチンの使用によって、子宮頸癌の発症数を約 70% 減少させると推計されています。

● おわりに

子宮頸がん予防ワクチンの接種で HPV16 型、18 型の感染を予防できますが、全ての発がん性 HPV の感染を防ぐことができません。また、ワクチンを接種しても、既に感染している HPV を排除したり、子宮頸がんの進行を遅らせたり、治すことはできません。そのため、ワクチンを接種しても子宮頸がん発症の可能性はゼロではありません。

☆ **子宮頸がんを完全に防ぐためには、子宮頸がん予防ワクチンの接種だけでなく、接種後も定期的に子宮頸がん検診を受けることがとても大切です。**

<参考>

- ・ GSK Pharmacist journal 2009.10
- ・ サーバリックス製品情報概要 (成人・小児)
- ・ 毎日新聞 2009.9.10